

墨田区都市整備部  
開発促進室

宮口利則さん  
(一言会 事務局)



昭和28年、北斎生まれ。美濃部参政の時、公務員試験を受け、墨田区配属になる。以来19年、建築指導、京島まちづくり、管轄、一言会まちづくりと歩いてきた。

長身、しっかりとした骨格。いつも部下に鞭を懸はしているが、笑うと細い眼が更に細くなる。ここぞと思ったところでは、後には退かない頑張り屋だ。京島でまちづくりの勉強をし、管轄では向島中学の和風体育館を手付ける。

宮口氏が担当になったこの3年間は、まちづくりにとって重要な時期であった。旧墨堤之道、有季園と事業は進んでいたが、一言会と行政の立場の違いで、会議はギクシャクしていた。

「これでは、今まで通りの行政指導型のまちづくりだ。住民参加のまちづくりではない」と、険悪な空気が流れた。この危険な状態を乗り越えられたのは、事業を取り巻く地域の人たちの理解と協力。遠くから支援を送ってくれた人たち。「自分たちのまちは自分たちでもっと良くするんだ」という一言会の熱い思い。その思いを受け止め直した宮口氏ら行政の努力があったからだと思う。

「行政不信とか住民不信とか言いますよね。僕は対立だなんて思わない。お互いをよく知って、お互いのテリトリー(領域)を認めた上で、解決方法を探す。地域にふさわしい解答が必ずあるはずですよ。」広い背中にも自信のようなものが見えた。(純)

一言会 / 防災まちづくり瓦版

第24号 平成3年3月1日発行

編集 / 一言会を防災のまちにする会 編集員  
高原純子・若木菊枝・木田茂男・木田文代

編集協力 / マヌ都市建築研究所

発行 / 一言会を防災のまちにする会 事務局  
墨田区都市整備部開発促進室内

〒130 墨田区吾妻橋1-23-20 Tel (5608)1111

まちづくり用地になった高田製薬跡地



朗報です。東向島一丁目二十番の高田製薬跡地(約三百坪)をまちづくり用地にすることが二月二七日、区と東急不動産の間で合意に達しました。一言会は、防災まちづくりをすすめるにはどうしても必要な土地であるとかねてから区に取得を要望してきまりましたが、その願いがようやくかなうことになりました。同跡地は、長年空き地として放置されてきました。昨年六月に東急不動産が買収し、五階建てのマンションを計画しました。一言会は、同社に区への売却の検討を強く要望しましたが、同社の方針は変わらず、十月の理事会では涙を飲んで取得を断念しました。そして少しでも防災まちづくり計画の方針に近いものに関係計画を改善してほしいと、東急不動産に十項目の要望書を提出しました。東急不動産との協議は、東向島一丁目中町会と東向一南町会とわいわい会が担当になり、

昨年十月から今年一月まで計三回行いました。一言会が要望したのは、①集会所の寄贈 ②防災設備の整備 ③避難用道路の確保 ④地域に調和したデザインなど。これに対して、東急不動産は計画を一部修正し、防災まちづくりへの協力の姿勢を示しましたが、集会所の寄贈などいくつかの点について問題があり、一月十四日に再度要望書を提出し、協議を続けることになっていました。同跡地は、防災活動の拠点に位置づけている一寺小と言問小の間の木造密集地にあり、一言会は防災まちづくり計画の中で、ここを一寺小と言問小を結ぶ防災用道路「一寺言問の道」の整備用地として、また防災広場用地として利用したいと考えております。今後、区と協議しながら、計画の実現に向けて検討して行く予定です。

願いがかなった!

高田製薬跡地がまちづくり用地に

東急不動産、マンション計画をやめて区に土地を売却



安心とつるおの「下町」の「手」をめぐって

防災まちづくり瓦版

発行 / 一言会を防災のまちにする会

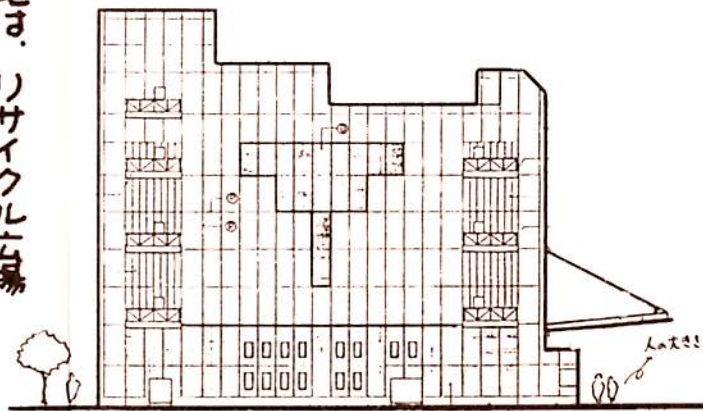
1991. 3. 1.

# まちに配慮した倉庫にして！

## アサヒビールに計画の再検討を要請

墨堤通りのアサヒビール倉庫貯場場、八階建て相当の巨大な倉庫が計画されています。一言会は、計画が明らかになった昨年九月以来、アサヒビール及び称島建設(設計・施工)に防犯まちづくりへの協力を要請し、協議を重ねてきました。その結果、墨堤の桜を再生し、スロープ堤防にするために地盤を上げることに加えて、

- ①11トン車利用の人工地盤計画の廃止  
↓スロープをつくり、利用はろく車まで
- ②縦の線を強調し、変化のある壁面デザインへの変更
- ③床面積を二〇〇〇㎡減少↓計画床面積は二〇〇〇㎡などの改善がなされました。しかし、一言会は、法的に満足していても、妥当であるといえないとして、計画の再検討をアサヒビールに要請しました。



墨堤通り側の立面図(裏面に南側からみた立面図掲載)

### アサヒビールに要望した三項目

- (1) 高さ30m以上の倉庫が長さ130mにわたって壁のように建ち、ものすごい圧迫感がある。ヒューマンスケールでつくられた私たちのまちに配慮して、全体のボリューム(容量)を小さくしてほしい。
- (2) 建設地はかつて大倉別邸に建てていた文化的に由緒のある場所。貴社が文化に力を入れるなら、たとえば倉庫といえども、もっとレベルの高いデザインにしてほしい。
- (3) 鵜田川は近い将来、緩斜堤防になり、市民に親しまれる場所になることが期待されている。鵜田川に背を向けるのではなく、川にも正面を向けた建物にしてほしい。

## 衆会の統編を世田谷で開催

三月九日に下北沢で「まちづくりフォーラム91」

昨年三月に一言会が中心になって開催した「防災まちづくり衆会・すみだ」は、都内各地のまちづくり団体が一堂に集い、各地区が独自にすすめてきたまちづくりが、はじめて共通の場で語られた貴重な機会だったと喜ばれました。

そこで、まちづくり衆会のような集いを今後も継続的に持ちたいと、世田谷区の三つのまちづくり団体の呼びかけで、第二回のまちづくりフォーラムが開催されることになりました。

一言会も実行委員会の一団体として企画・準備・運営に携わるとともに、パネル展示会やテーブル・ディスカッションで、二の間のまちづくりの成果を発表する予定です。

### まちづくりフォーラム'91・せたがや

- 日時：3月9日(土)12:00~18:30
- 会場：北沢タウンホール  
(世田谷区北沢2-8-18 Tel 5478-8000)
- 企画：テーブルディスカッション/まちづくり展示会/まちづくり交流会
- 問い合わせ：一言会事務局 Tel 5608-1111  
(内線3913)



2月2日の実行委員会には、副会長と運営事務局長が出席

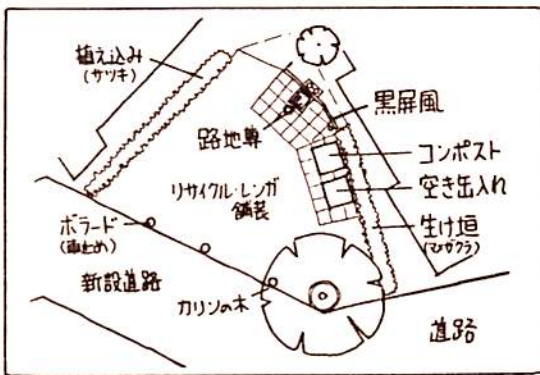
## 向島有季園 平成三年度の利用者決まる

2月17日に向島有季園で公開抽選会が開かれ、平成三年度の防災菜園利用者4名が決まりました。当選倍率は2倍。

区画名	利用者氏名	住所
めじろ	横山 幸男	東向島1-33-13
すすめ	久保田松子	向島5-49-4
しらすぎ	市川右近	向島5-21-6
ほと	植竹モト	向島5-35-14
つぼめ	木村 都子	東向島1-22-8
かもめ	内野久美子	東向島1-10-20
せきれい	今村 邦人	東向島3-22-8
みやこどり	紙谷 平子	東向島1-18-14
しじゅうから	森 富子	向島5-21-7
ほととぎす	矢部 兼英	東向島1-6-14
こじゅけい	黒田 誠一	東向島1-13-13
じゅうまつ	龜谷京子	東向島1-21-13
ちどり	嶋崎 昇二	向島5-34-9
うぐいす	石橋 康人	向島5-34-5



4 上から見たまちづくり用地



4 リサイクル広場の計画図

一言会の副会長は、「墨田区リサイクル都市づくり懇談会」に参加し、雨水のリサイクル装置としての路地帯を紹介してきました。同懇談会では、先頃答申をまとめ、その中で路地帯をリサイクルの拠点として区内に広めていくことが提案されています。

## 路地帯＝リサイクルのシンボル

●東向島三丁目のまちづくり用地は、リサイクル広場

### コンポストや空き缶ストックも

東向島三丁目のN.E.C.百花寮の裏に区が取得したまちづくり用地の利用計画が二月四日に開かれた周辺住民と一言会の協議会で確定しました。

テーマはリサイクル。雨水のリサイクル装置でもある路地帯を中心に、落葉を集めて堆肥をつくる装置(コンポスト)や空き缶を貯めておく箱が置かれます。

また、舗装は下水道の汚泥を使った煉瓦を使用し、ポラード(車止め)に木製の電柱を再利用するなど、材料にもリサイクルの考え方が貫かれています。

地元の町会(東向島宮元町会)を中心にリサイクル活動への取り組みの動きもあり、この広場の利用を契機にそうした活動が一層活発になることが期待されています。

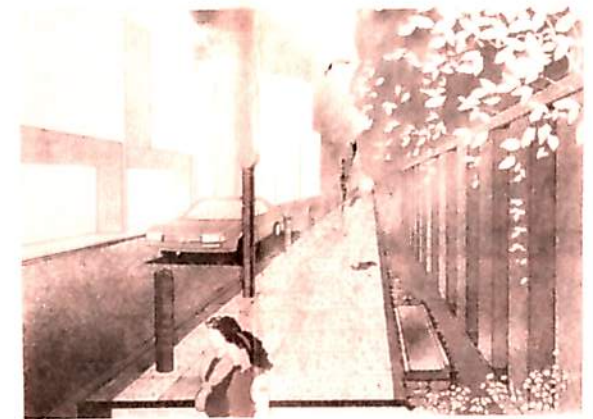
(完成イメージ図は裏面参照)

# 「一言問」乃地圖

[1991年版]

- 一言会の会合に使う集会所
- ★ 瓦版が置いてある喫茶店
- ☪ 災害時に水がある銭湯
- ▲ 塀を生け垣にした家

「一言問」地区（墨田区向島五丁目、東向島一丁目・三丁目、堤通一丁目）の防災まちづくりは、東京都の防災生活圏づくりのモデル地区として、1985（昭和60年）から始まった。今年（昭和60年）は6年目をむかえ、地元6町会と住民有志の「わいわい会」で構成された「一言問を防災のまちにする会」（一言会）を中心に、まちの良さを活かしながら、災害に強いまちづくりがすすめられている。この「一言問」地区は、これまでのまちづくりの経緯と成果が一目でわかる地図である。



百花園前の完成イメージ図

4 「寺島のみち」の整備：百花園前の通り  
 神社など災害時の応急利用施設を結ぶ「寺島のみち」づくりの一環として、整備に着手。平成3年3月までに明治通りから百花園の児童遊園までの区間が完成する。計画の検討にあたっては、まず一言会がそれまでの地元懇談会や理事会で出された問題点や提案を踏まえ、現場検証などをおこなって、デザイン・イメージをまとめ、区の道路課に提案した。道路課はそれを踏まえて設計計画をまとめて一言会と協議を重ねた。舗装タイルを試験張りして検討するなど、これほど住民が主体的に参加し、デザインの細部にわたるまで行政と話し合ってきた例はめずらしいという。

## 2 向島百花園周囲の景観形成活動

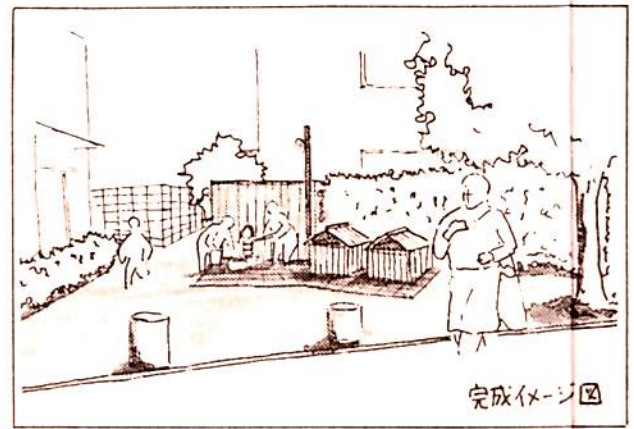
高層マンションが恒例の月見の宴を台無しにすると「観月権」を主張した建設反対運動があつた。このため一言会では周辺住民を対象に意識調査を実施して、問題点を整理した。その後、園内からの景観に配慮した建築の考え方が浸透し、高さをおさたり、看板や照明を工夫した建物がいくつか生まれている。

## 3 路地尊第1号

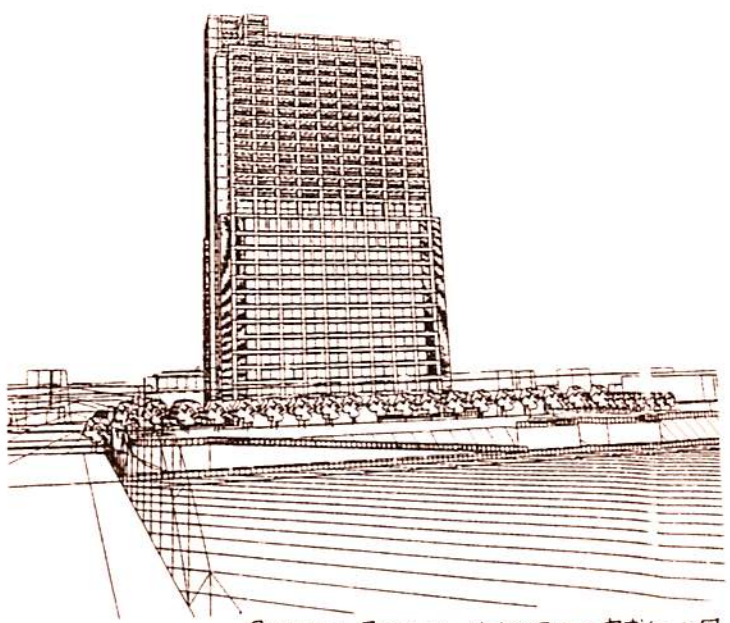
消火器、ホース、梯子、トリ、ホースを内蔵した掲示板タイプ。一言会の防災まちづくり計画を検討している最中に完成したことから、防災まちづくり活動を推進する起爆剤になった。井戸水を汲み上げている銭湯の前に置いていたため、災害時の水のありかを示すサインにもなっている。昭和62年3月完成。

## 1 リサイクル広場の整備

区が取得したまちづくり用地のうち、道路整備後の残りの用地を利用してつくったおケット・パーク。リサイクルをテーマにして、雨水のリサイクル装置である路地尊を中心に、落ち葉を集めて堆肥をつくるコンポストや空き缶をストックしておく箱を置く予定。また舗装は下水道の汚泥を固めた煉瓦を使用し、ホラード（車止め）は、木製の電柱を再利用するなど、材料にもリサイクルの考え方が貫かれている。一言会を中心に計画を検討し、周囲の住民の同意を得て、計画をまとめた。平成3年3月までに完成予定。



完成イメージ図



隅田川から見たリバーサイド隅田の完成イメージ図

## 17 再開発計画：リバーサイド隅田

日本電産機器工場跡地に、大林組が3階建の超層ビルを計画。一言会は計画に先立って、13項目のデザイン・ガイドを提案した。計画によれば、隅田川はスーパー堤防になり、川沿いにレストランが並び、16階の展望ロビーからは隅田川の流れがのぞめるという。また堤通通りに桜並木が並び、隅田川への道も確保されることになる。平成6年に完成の予定。

## 16 塀の生け垣化（堤通一丁目など）



一源商店（堤通1）の生け垣

## 15 旧堤之道（子育地蔵～白鬚神社）の整備

かつての墨堤の名残をとどめる唯一の道。墨堤の桜再生のシンボルとして、また「寺島のみち」づくりの先行プロジェクトとして、防災まちづくり計画の具体化の第一弾。一言会の提案に対し、沿道住民が反対し、一時は実現が危ぶまれたが、一言会と沿道住民の度重なる協議を経て、計画づくりに着手。以降、他地区の事例を学んだから、沿道住民と一言会と区が協力して検討をすすめ、平成2年3月に完成した。



整備された旧墨堤之道

## 14 再開発計画：アサヒビル寺島配送センター

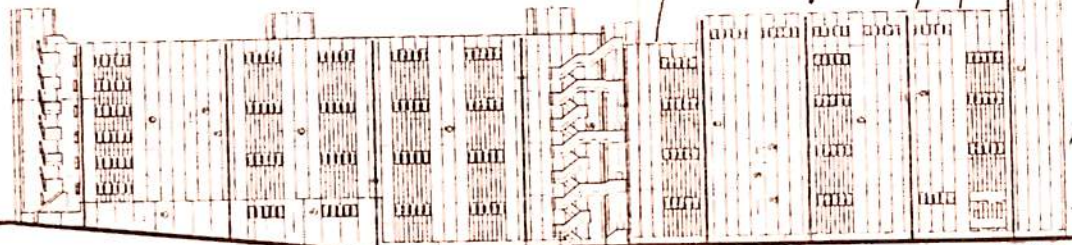


□ まちづくり用地（子ども広場として開放）

## 5 墨田川高枝前の緑化

「寺島のみち」づくりの一環で、

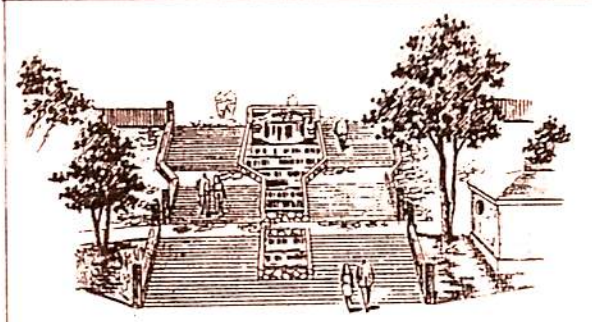
8階建て相当の巨大な倉庫が計画されている。一言会は、関係者と協議を重ね、防災まちづくりへの協力を要請。その結果、墨堤の桜を再生し、隈田川沿いはスロー歩道にするために地盤を上げ、壁面にデザインを施し、床面積を2000㎡少なくするなどの改善がなされた。しかし一言会は、現在の計画は威圧感があり、まちに対する配慮が感じられないとして、計画の再検討を要望している。



南側から見たアサヒビル寺島配送センターの立面図

### 13 桜橋デッキスクエアの整備

隈田川との間にある道路の上にデッキ（人工地盤）をかけて、桜橋と桜橋通りをつなぐ。デッキスクエアの延長距離は143m。完成すれば、新庁舎前のように隈田川を眺められる明るい広場ができる。



桜橋通り側から見た桜橋デッキスクエアの完成イメージ図



### 12 言問小周囲の整備

防災活動拠点になっている言問小学校を安全にするために、正門前の道路を拡張した。また周囲30m以内が不燃化促進区域に指定され、一定基準を満たす不燃建築物を建てた場合、助成金が受けられる。

拡張された言問小正門前の道

### 11 防災小緑地：向島有季園の整備



区が取得したまちづくり用地の利用方法を一言会が中心になって検討して誕生した防災菜園。一言会は瓦版で一区画一坪の菜園利用者を公募し、完成後も利用者会議などを通じて管理運営にあっている。栽培は、路地菓の水を利用し、有季園の名にちなんで有機農法を貫いている。利用期間は一年間。みんなで楽しむ緑づくりと町会と絆を深めた仲間づくりがおこなわれている。平成元年3月に完成。

### 10 路地菓第2号

全国的に有名な路地菓は、この第2号。隣の家の屋根に掛った雨水を地下のタンク（3トン）に貯めて、手押しポンプで汲み出す。このシステムがささやかながら地球環境への関心の拡大に貢献していると、マスコミが注目。計画づくりから用地探し、用地提供、管理まで住民主体ですすめられたことも話題になり、各地に路地菓の兄弟が次々と生まれている。路地菓の水は、植木の水や金魚の水などに使われ、ご近所生活の一部になっている。江戸の天水桶をおもわせるデザインは、名実共に一寺言問のシンボル。昭和63年3月完成。



### 6 地蔵坂通りの整備

地蔵坂通りをふだんから安心して歩ける道にしていくために一言会と商店会が協力して、整備のすめ方を検討。平成2年に街燈が整理改良された。



地蔵坂通りのまちづくり用地

### 8 一寺小学校地域防災情報連絡会の開催

小学校を中心とした災害時の応急体制を確立していくために、通学区域の関係町会が一寺小、PTA、墨田区に呼びかけて、「一寺小学校地域防災情報連絡会」を発足し、担当者が集まり、防災に関する情報交換をおこなっている。平成2年3月発足。



### 9 高田製菓跡地(まちづくり用地)をめぐる活動

防災用道路「一寺言問の道」の整備用地、防災広場の整備用地として一言会がかねてから区に取得を要望してきた土地。長年空き地として放置されてきたが、昨年6月に東急不動産が買収して、マンションを計画。同様に区への売却を強く要望したが、断念。少しでも防災まちづくりに役立つ計画にしてほしいと、要望書を提出して協議を重ねていた。同社は計画を断念し、今年2月に土地を区に売却した。一言会は今後、区と協議しながら、整備計画を検討する予定。

校舎の建て替えに際し、一言会が沿道部分の緑化を提案して、平成2年に整備された。

